

## 社会科（地図）調査研究報告書

書名 観点	東京書籍 新編新しい社会科地図  7 2 3
取扱内容	<p>○ 社会科の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界全図」において、中心からの距離や方位が正しい地図と面積が正しい地図を比べたり、日本と世界の国々との時差を調べたりする活動</li> <li>・「世界州別図」において、世界の州の境を読み取ったり、南北アメリカ州各国の主な言語について調べたりする活動</li> <li>・「世界主要地域詳細図」において、西アジア・環地中海地域のパイプラインの位置を調べたり、アメリカ合衆国の等時帯線を読み取ったりする活動</li> <li>・「世界の資料図」において、国際協力機構による環境保全の取組について考えたり、世界の生活・文化を調べたりする活動</li> <li>・「日本全図」において、我が国の東西南北端や北方領土・竹島・尖閣諸島の位置を調べたり、我が国の領土や排他的経済水域の範囲を読み取ったりする活動</li> <li>・「日本地域別詳細図」において、高速道路網による他地域との結び付きを調べたり、世界遺産のある県を読み取ったりする活動</li> <li>・「日本の資料図」において、地理的条件と産業の分布を関連付けて読み取ったり、日本の火山と地震の分布から、災害と向き合う方策を考えたりする活動</li> </ul> <p>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、巻頭の地図帳の使い方の特集ページにおいて、複数の資料図を結び付けてヨーロッパの自然環境や産業の特色を読み取ったり、EU加盟国が増えた影響をヨーロッパの自動車工場の分布などの資料図と関連付けて考察したりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</p>
内容の 排列、 分量等 ・	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸地域において、一般図により諸地域を大観する学習の後に、各地域の自然や農業等に関する資料図を、考察する主題や生徒の興味・関心に応じて選択できるよう構成し、発展的に学習できるような工夫</li> <li>・日本の諸地域において、一般図により諸地域を大観する学習の後に、各地域の自然や産業の様子などを示した資料図を、考察する視点に応じて選択できるよう構成し、発展的に学習できるような工夫</li> </ul> <p>○ 内容の分量については「世界の諸地域」は 57 ページ、「日本の諸地域」は 63 ページ、「資料・統計等」は 60 ページであり、総ページは 184 ページで、前回より約 21% 増となっている。（B 5 判から A B 判に変更）</p>
使用上の 配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住む市町村の様子を詳しく調べることができるよう、北海道の南部及び北部の地域別詳細図や札幌市中心部の資料図を掲載している。</li> <li>・北海道についての興味・関心を高めることができるよう、北海道の地形と自然災害やアイヌ語に由来する地名の資料図を掲載している。</li> </ul> <p>○ 主体的に学習に取り組む工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する資料を活用して調べる方法を「ジャンプ」のマークで示している。</li> <li>・資料図の読図のポイントや考察の視点を「キャラクター」による吹き出しで示している。</li> </ul> <p>○ 巻末に日本と世界の資料図や 196 か国及び 47 都道府県の統計をまとめて掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>
その他	

# 社会科（地図） 調査研究報告書

書名 観点	帝国書院 中学校社会科地図  724
取 扱 内 容	<p>○ 社会科の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界全図」において、地図と地球儀では大陸の形や大きさが異なることを調べたり、日本と世界の国々との時差を調べたりする活動</li> <li>・「世界州別図」において、アフリカ大陸の国境線の特色を読み取ったり、ヨーロッパの位置を同緯度・同縮尺の日本と比較したりする活動</li> <li>・「世界主要地域詳細図」において、ライン川とドナウ川を通過する国を調べたり、モスクワから各都市への距離等から国土の広さを読み取ったりする活動</li> <li>・「世界の資料図」において、東アジア大陸と日本の間にある古代からの結び付きを調べたり、農作物の生産地域と伝統料理の関連を考えたりする活動</li> <li>・「日本全図」において、我が国の東西南北端や北方領土・竹島・尖閣諸島の位置を調べたり、我が国の領土や排他的経済水域の範囲を読み取ったりする活動</li> <li>・「日本地域別詳細図」において、高速交通網の整備と他地域との結び付きを調べたり、地形の特徴から発達した産業の違いを読み取ったりする活動</li> <li>・「日本の資料図」において、農業や工業の分布の特色を読み取ったり、日本の地震と火山の分布から、様々な災害とその対策について調べたりする活動</li> </ul> <p>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、巻頭の地図帳の使い方の特集ページにおいて、オセアニア州の資料図とグラフを関連付けてオーストラリアの自然や産業の特色を考えたり、北陸3県の特色を自然や人口、産業などの複数の考察の視点からとらえ、白地図を活用してまとめたりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</p>
内容 排 列、 構 成、 分 量 等	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸地域において、基本図により諸地域を大観する学習の後に、環境問題や日本との結び付きを示した資料図を、考察する主題や生徒の興味・関心に応じて選択できるよう構成し、発展的に学習できるような工夫</li> <li>・日本の諸地域において、基本図により諸地域を大観する学習の後に、各地域の自然や産業の様子などを示した資料図を、考察する視点に応じて選択できるよう構成し、発展的に学習できるような工夫</li> </ul> <p>○ 内容の分量については「世界の諸地域」は59ページ、「日本の諸地域」は66ページ、「資料・統計等」は47ページであり、総ページは176ページで、前回より約7%増となっている。</p>
使用 上 の 配 慮 等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住む市町村の様子を詳しく調べることができるよう、北海道の南部及び北部の地域別詳細図や札幌市中心部の資料図を掲載している。</li> <li>・北海道についての興味・関心を高めることができるよう、釧路湿原や開拓の歴史とアイヌ語に由来する地名の資料図を掲載している。</li> </ul> <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を活用し調べる方法や学習課題を「やってみよう」の囲みで示している。</li> <li>・地域の地理的事象を読み取る着眼点を「地図をみる目」の囲みで示している。</li> </ul> <p>○ 巻末に日本と世界の資料図や196か国及び47都道府県の統計をまとめて掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>
その他	